

紅粉商

〔婚禮道具諸器形寸法書地〕紅猪口箱。總高五寸、五寸四方、中次蓋也。

紅筆。大長三寸二分、同上下トモ四分、小長二寸九分。

〔元治京羽津根三〕諸職諸商賣

紅所 鳥丸上長者町上 小紅屋和泉掾 室町丸太町上 中村屋善七 榎木町鳥丸西

綿屋德兵衛 衣棚下立賣上 松屋傳右衛門 四條ふや町西 猪口紅所 紅屋平兵衛

〔江戸繁昌記三篇〕愛宕

遠望裕達使、人魂飛略中 竿頭飄紅、無數星散、臙脂舖招旆也。

紅粉雜載

〔枕草子八〕うつくしきもの

すいめの子のねすなきするにおどりくる、またべになどつけてすへたれば、おやすいめの虫な

どもてきてく、むるもいとらうたし。

〔源氏物語六摘花〕繪などかきて色どり給略中 我源もかきそへたまふ、かみいとながき女をか

きたまひて、はなにべに。をつけてみ給ふに、かたにかきてもみまじきまじたる、わが御かげの

きやうだいにうつれるが、いとよらなるをみ給て、手づから此あかばなをかきつけ、にほはし

てみ給ふに、かくよきかほだにさてまじれらんは、みぐるしかるべかりけり。

〔吾妻鏡四十九〕正元二年元應 三月廿八日乙未、和泉前司行方持參御息所御服月充注文於御所

將軍家親王宗尊覽之、

正月分略中 御赭

〔廻國雜記〕へにが谷をとをりて、化はひ坂を越とて、俳諧

かほにぬるべにがやつよりうつりきてはやくも越るけはひ坂かな

〔樂屋圖會拾遺〕下立役部屋人ごろし切腹などのせつに、面の色をかゆるは、口紅粉をさいふす、申略